

コシヒカリ生育速報 第1号

令和8年6月11日
魚沼農業普及指導センター
電話：025-792-1309

生育早い！ 田植え後25日に中干し開始！

【6月10日生育状況】（管内10か所平均、平均田植日5/18）

草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉数(葉)		葉色(SPAD)	
本年	指標値比	本年	指標値比	本年	指標値差	本年	指標値差
32	113%	243	147	7.0	1.1	38.1	1.1

○ 指標値比較【草丈：長い 茎数：多い 葉数：早い 葉色：やや濃い】

5月21日から6月10日までの平均気温は平年差+1.9℃（前年差+2.4℃）で、稲の生育は大きく進んでいる。

○ 1か月予報(6/11新潟地方気象台発表)では、向こう1か月の気温は高い確率が50%で、今後も気温が高い見込みのため茎数の急増が予想される。

【今後の管理のポイント】

1 生育早い、田植え後25日をめどに中干しを開始する

(1) 田植えから20日経過したらほ場を確認し、遅れずに中干しを開始する。

【中干し開始のめやす】

m ² 当たり	株当たり
270本	(50株植え) 18本
	(60株植え) 15本

※中干し開始時期のめやす → 茎数が目標穂数（m²当たり340本）の80%に達した時

(2) 中干しの遅れは、籾数過剰や、倒伏につながり品質低下の要因となるため、遅れずに実施する。

(3) 茎数が中干し開始のめやすに達しない場合であっても、根の健全化を図るため田植後30日までには中干しを開始する。

2 溝切りは必ず実施！

中干しの効果を高め、フェーン等の異常高温時にすみやかにかん水できるように溝切りは必ず行う。

3 病害虫対策 補植苗の除去、農道・畦畔の除草の徹底

(1) 補植苗はいもち病の伝染源となるので、すみやかに除去する。

(2) 斑点米カメムシ類の発生を抑えるため、畦畔・農道の除草を徹底する。

(3) 刈った草は用水や河川に流さないように注意する。

農作業時の熱中症に注意しましょう。こまめな水分・塩分の補給や休憩が大切です。

次回発行
6月19日